

41. 高知県いの町

対象地域	高知県いの町仁淀川流域			
申請主体	高知県いの町			
計画名	にこ淵の時間分散による渋滞緩和と駐車場整備事業			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	5	100	200
	- 国内	4	90	190
	- 訪日外国人旅行者	0.1	10	10
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 令和6北地域に位置する「にこ淵」は急峻な山間部の観光地にもかかわらず、SNSでの知名度の向上とともに近年多くの観光客が押し寄せ、令和6年度に遊歩道の増設など受入環境整備を行ったことで、さらに観光客が増加している状況である。(令和7年GWも大渋滞が発生) にこ淵に続く国道沿いには、大規模な観光地はなく、小規模な道の駅がいくつか存在するのみである。そのため、にこ淵を訪問する観光客は、にこ淵に向けて車を走らせはじめると、訪問途中で混雑を避けるための時間調整等を行うことができない。 			
協議体制	協議の場			
	オーバーツーリズムの未然防止・抑制による 持続可能な観光推進事業関係者協議会 いの町を中心に、住民関係者、高知県、観光協会(広域含む)、有識者、IT事業者等で協議会を組成し、本事業についての協議を実施する。			
	参加者			
	行政機関等	有識者等		
	<ul style="list-style-type: none"> いの町 高知県 	<ul style="list-style-type: none"> 高知大学次世代地域創造センター 岡村健志准教授 		
	事業者	住民関係者		
	<ul style="list-style-type: none"> NTTドコモビジネス(株) いの町観光協会 仁淀ブルー観光協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 吾北地区区長会会長 程野地区長 		

エリアマップ

車のCMにも使われたスカイライン紅葉時期等は非常に込み合う



愛媛方面からの道の駅温泉施設があるが、駐車場は狭い



大規模な駐車場を備えるキャンプ場。星がきれい。



至しまなみ街道



至仁淀川町

至高知市

いの町の隣町。仁淀ブルーが見える溪谷等はオーバーツーリズムとなっている



仁淀川を眺めることができるカフェ季節によらず、県外客でにぎわう

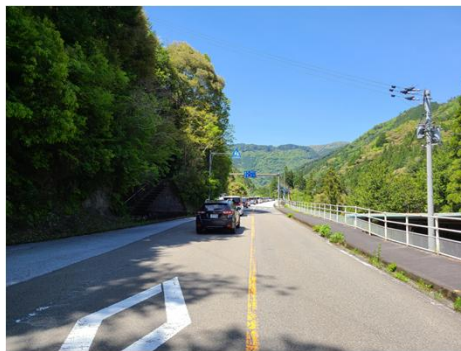


高知方面からの道の駅駐車場が少なく、満車となりやすい



	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 駐車場待ち列による道路渋滞	<ul style="list-style-type: none"> にこ淵につながる林道および国道（194号）については、大型連休を中心に、にこ淵の駐車場待ちの渋滞が発生している（令和7年度GWには、国道で約100台（1.5km程度）の渋滞） 	地域住民 道路利用者
2. バス駐車・転回場所への一般車の誤駐車	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度ににこ淵駐車場を拡幅し、整備した『バス駐車・転回場所』の運用を開始したが、バス駐車・転回場所であることを明示しているにもかかわらず、観光客の一般車両の誤駐車が発生 バスがにこ淵駐車場で駐車・転回できず、狭い山間の道路を転回可能な場所（4km先のグリーン・パークほどの）まで往復し、一般車とのすれ違い等で危険が生じている 	地域住民 道路利用者
3. にこ淵の観光資源としての活用	<ul style="list-style-type: none"> にこ淵は、「渋滞を起こす一方で、地域への経済波及はほとんどない観光地」という認識であり、観光地として、住民に持続的に支持される存在になっていない 	地域住民

1 駐車場待ちの渋滞



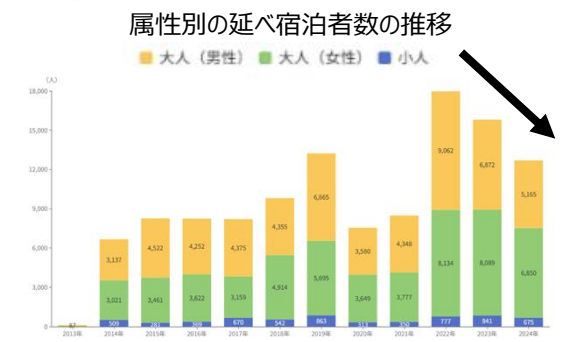
令和7年のGWに大渋滞となった国道194号。片側1車線かつ、一本道であり、渋滞を避ける道がないため、通行の妨げとなった。

2 バス駐車・転回場所への誤駐車



上：バス駐車・転回場所に誤駐車する一般車両
 下：バス専用であることを知らせる看板

3 宿泊者の減少



RESASでの宿泊者分析

いの町については、にこ淵の観光客の増加と比例しておらず、コロナ後宿泊者が減少傾向

主な背景・要因

1. 地形制約と来訪時間の集中による駐車場不足・渋滞

- SNSでの急速な認知拡大による来訪者増に対し受入態勢は整備中である
- 急峻な山間地であり、大規模駐車場の整備が難しく既存の駐車余力（駐車場19台＋路肩3～8台）がピーク時に不足している
- にご淵へのアクセス道は狭い林道で駐車待ち停車が発生すると行き違い不能となる
- 「仁淀ブルーは昼頃が最もきれいに見える」という情報拡散により昼前後に来訪が集中する
- 大型連休を中心に渋滞が発生している（令和7年のGWには国道で約100台（約1.5km）の渋滞が発生）

2. 表示・舗装の未整備によるバス駐車・転回場所への一般車誤駐車

- バス専用の駐車・転回場所を整備し日本語で明示しているにもかかわらず一般車の誤駐車が発生している
- 駐車場が未舗装であり、バス駐車・転回のための区画はロープのみのため、一般車の駐車区分が分かりにくく、多言語表示が不足している
- バスが駐車・転回できない場合、バスは狭い山道を4km先の施設まで往復して転回せざるを得ず、一般車とのすれ違いなど安全上のリスクが生じている

3. 受入環境とデータ不足による地域経済波及の未実現

- 急こう配の階段しかない遊歩道、仮設のみのトイレ、狭い駐車場などにより現地での経済活動が実施できていなかった
- また、訪問者数や属性データを取得できておらず観光消費拡大策の立案に必要な基礎情報が不足している
- 訪問客増にもかかわらず宿泊者数は減少傾向で、住民からは「渋滞を起こす一方で地域への経済波及がほとんどない観光地」と認識されてしまい、観光地として住民から持続的・支持される存在に至っていない



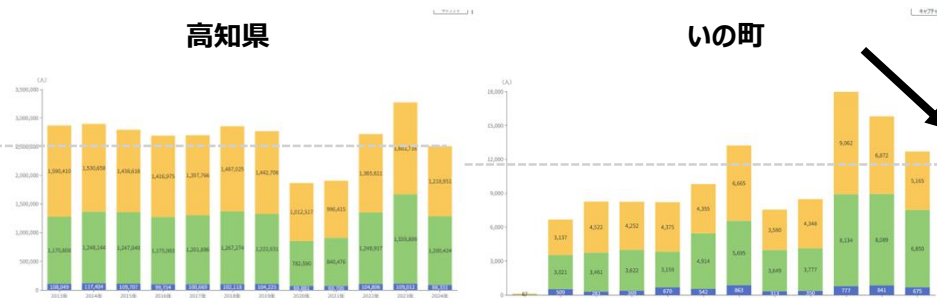
国土地理院空中写真（令和6年）を元に作成

にご淵の場所
（急峻な山間に位置、周辺には育成林等も多数あり、アクセス道路は住民に加え、多くの林業関係者も利用）



バス転回場に誤駐車する一般車両

RESASTでの宿泊者数比較



宿泊客数はコロナ前の水準に回復傾向

訪問客数が増加しているにもかかわらず
宿泊客数は2022年をピークに減少

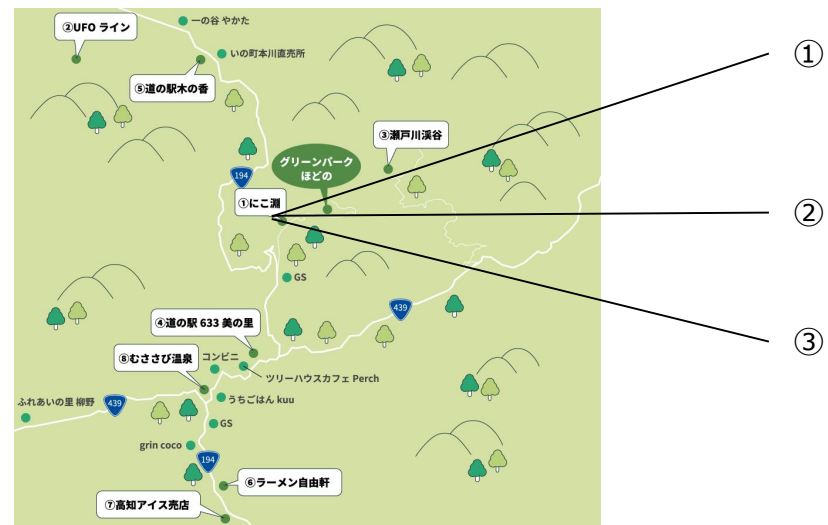
にご淵の賑わいが宿泊客数増加など
経済波及につながっていない

4. 対策の概要

目指す姿	にこ淵に流入する車両台数を平準化することで、住民に影響を与える大規模渋滞を減少させ 地域にとってあってよかったと思える観光地へ
KGI	(指標) 大規模な渋滞の減少 (時間当たりの最大流入台数減少)
	現状値：153台/時間 (令和7年度) 目標値：120台/時間 (令和9年度)
<ul style="list-style-type: none"> SNSにより、急速に観光客が増加し、オーバーツーリズムが発生している「にこ淵」について、時間場所分散を行うことで、オーバーツーリズムの解消を行う。 	

■ 補助事業の実施概要

需要の分散・平準化	
① 旅前における混雑予測情報提供による時間分散事業	
【背景・課題】	<ul style="list-style-type: none"> にこ淵への公共交通機関が少なく、観光客の多くが自家用車・レンタカーで来訪する。10-15時に観光客が集中し、特に大型連休を中心に大渋滞が発生し交通マヒを起こしている
【事業内容】	<ul style="list-style-type: none"> 混雑予測情報と仁淀ブルーが楽しめる場所、観光地情報等をまとめた「にこ淵訪問前情報サイト」(多言語対応)を構築。「にこ淵訪問前情報サイト」認知度向上のため、SNS投稿・SNS広告を用いてプロモーション実施
受入環境の整備・増強	
② にこ淵駐車場誤駐車防止事業	
【背景・課題】	<ul style="list-style-type: none"> バス駐車・転回場の整備を行ったが、観光客の一般車両の誤駐車が続発。バスは狭い山道を4km上ったキャンプ場まで走行する必要があり、安全を損なっている
【事業内容】	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の舗装を行い、一般車両の駐車可能場所、バス駐車・転回場所の区分を路面に表示するとともに、バス駐車・転回場所については、ポール等で一般車の誤侵入を防止 一般車両の駐車可能場所について、案内するサインージを設置し、一般車両駐車可能場所を明示するとともに、駐車場満車時には、駐車可能なスペースを案内する
地域住民と協働した観光振興	
③ 協議会運営とにこ淵活用観光計画の磨き上げ事業	
【背景・課題】	<ul style="list-style-type: none"> にこ淵の観光資源としての活用ができていない
【事業内容】	<ul style="list-style-type: none"> にこ淵訪問者の人数・属性(性別・年代等)を取得できるAIカメラを設置し、データを取得。観光客属性等データと、昨年度の事業により設置した車のナンバー分析データを用いて、オーバーツーリズムを防止しながら、地域住民、事業者とともに、にこ淵と周辺の観光施設等を活用した観光振興についての計画を策定



GW中のにこ淵につながる国道
(最も混む時間である13時ごろには
約1.5km渋滞が発生)



現在の駐車場(砂利)



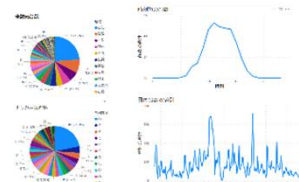
にこ淵訪問前情報サイト
(混雑情報を含め提供)
※画像はイメージ



舗装イメージ
(バス駐車・転回場と一
般車駐車場がわかりやす
いよう整備)



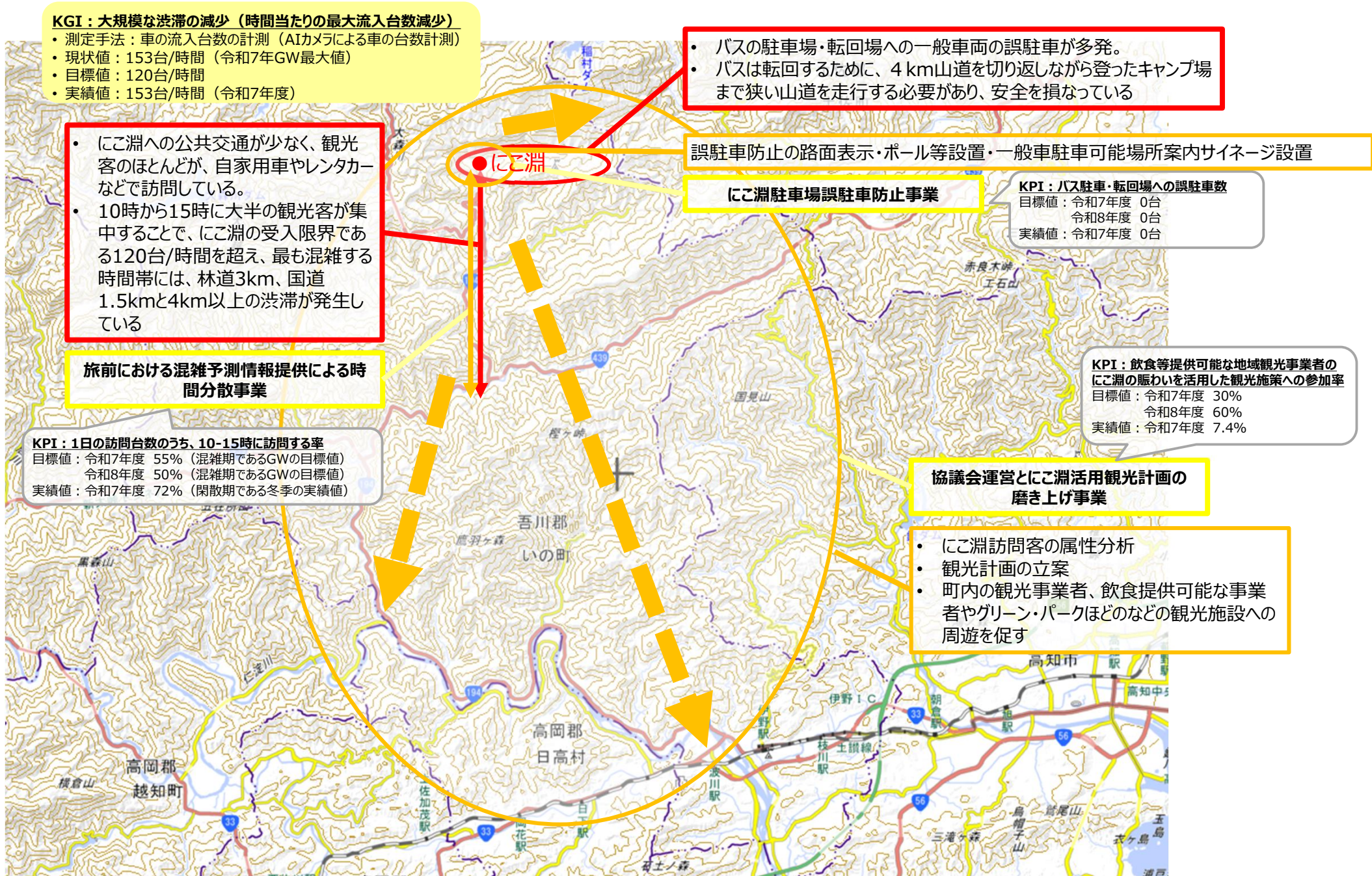
サインージ
表示イメージ



BIツールによる
にこ淵流入車両の分析




専門家と作成した
ロジックモデル(令和6年度実施)



出典：国土地理院の地図データを加工して作成

5-①. 主な取組（詳細）

需要の分散・平準化

補助事業①	旅前における混雑予測情報提供による時間分散事業		
事業目的	需要の分散・平準化		
実施主体	高知県の町	実施期間	令和7年11月～令和8年2月
<p>【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ にご淵については、にご淵まで訪問できる公共交通が非常に少なく、観光客のほとんどが、自家用車両やレンタカーなどで訪問している。 ・ 日光が差し込む昼頃でないと仁淀ブルーを見ることができないという誤情報が、SNSを通じて拡散し、10時から15時に大半の観光客が集中することで、にご淵の受入限界である120台/時間を超えている状況である。 →大型連休の10時から15時に車が集中することで、大渋滞を発生させ、交通マヒを起こしている状況である。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業で、白川郷の取り組みを参考に、にご淵に訪問する観光客が旅前で見ておくべき情報を集積した「にご淵訪問前情報サイト」（多言語対応）を新たに構築する。 ※「にご淵訪問前情報サイト」は、デザインおよびコンテンツを十分に考慮し、「見たくなるサイト」を構築する。 ※サイトには混雑予測のみでなく、道中の景観がよく仁淀ブルーが楽しめる場所等の情報を提供することで、観光客の訪問時間変更を促す。 ・ 「にご淵訪問前情報サイト」の認知度向上のため、SNSによる拡散、SNS広告（にご淵や仁淀ブルーで検索した観光客に配信）を活用したプロモーションを実施する。 <p>【推進ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客がみたくなるデザイン・コンテンツの導入 サイトの名称例：にご淵の歩き方 コンテンツ例：混雑情報、混雑を避けて訪問する場合のおすすめルート提示、にご淵伝説（漫画形式）、訪問時・駐車マナー等 ・ 新たに構築するサイト「にご淵訪問前情報サイト」の認知度向上施策（SNS等での認知度向上） 	 <p>GW中にご淵につながる国道 (最も混む時間である13時ごろには 約1.5km渋滞が発生)</p>  <p>時刻別の台数</p> <p>昼頃に観光客が集中 →渋滞の原因に</p>  <p>にご淵の“今”が分かる 公式サイト。</p> <p>リニューアルしたHPの広報</p>		

補助事業①

旅前における混雑予測情報提供による時間分散事業

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 1日のうちにご淵を訪問した車の台数のうち、10-15時ににご淵を訪問した割合 (GW)

令和7年度に掲げた目標値

- 55% (年度内)

事業の成果/目標の検証結果

- 72% (令和8年1月1日~2月1日のうち土日祝 (1/1-4,10,11,18,19,25,26,31,2/1)を対象にし、算出)

成果の詳細

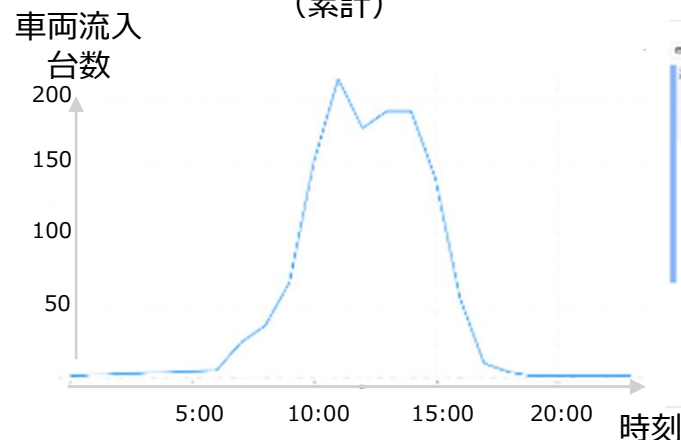
・1日の訪問台数のうち、10-15時に訪問する割合は、72% (1/1-2/1のうち、土日祝のみの流入台数)
→閑散期である冬季であり、混雑予測情報においても、混雑せず、にご淵を観光できる状況。そのため、観光客の行動変容にもつながっていない。

・にご淵ホームページコンテンツのうち3番目に閲覧率が高く、HP利用者の混雑情報への興味は高い状況

にご淵公式HPへの各種コンテンツ掲載



1/1-2/1のうち、休日の車両流入状況 (累計)



HP利用者のページ遷移 1/1-2/2



令和7年度事業を踏まえた継続課題

行動変容を促すコンテンツの確立

- 観光客が旅前に見たくなるとともに、行動変容を促すデザイン、コンテンツなどについて、確立していない。そのため、今後のコンテンツ更新を通じて、検討していく必要がある。

令和8年度以降の方針

HP更新を通じた情報提供の在り方の工夫

- 令和8年GWの状況等を確認するとともに、HPの更新を通じて、観光客の訪問日や時間変更を促進する最適な見せ方などを検討していく。

5-②. 主な取組（詳細）

受入環境の整備・増強

補助事業②	にこ淵駐車場誤駐車防止事業		
事業目的	バス駐車・転回場所への一般車の誤駐車を防止		
実施主体	高知県の町	実施期間	令和7年11月～令和8年2月

【背景・課題】

- ・ 昨年度、バスの駐車・転回場所を確保する目的で、駐車場の拡幅整備を行い、バス転回場であり、駐車禁止場所であることを示す掲示を行った。
- ・ しかしながら、バス駐車・転回場所への一般車両の誤駐車が後を絶たない状況である。
→一般車の誤駐車により、バスが駐車・転回ができず、バスは転回するために、4 km山道を切り返しながら登ったキャンプ場まで狭い山道を登っていく必要があり、安全を損なっている状況である。



バス転回場に誤駐車する一般車両

【事業内容】

- ・ 現在、駐車場は舗装等ができておらず、バスの駐車・転回場所であることも看板のみ設置している
- ・ バス駐車・転回場所に観光客の一般車両が駐車しないように、一般車両の駐車可能場所、バス駐車・転回場所の区分を路面に表示するとともに、バス駐車・転回場所については、ポール等で一般車両の誤侵入を防止する。
- ・ 一般車両の駐車可能場所について、案内するサイネージを設置し、一般車両駐車可能場所を明示するとともに、駐車場満車時には、駐車可能なスペースを案内する

【推進ポイント】

- ・ 外国人を含む観光客が、バス専用であることを認知できる掲示方法の検討
※他地域の観光施設や道の駅等の事例を参考に、掲示などを検討



サイネージ
表示イメージ

補助事業②

にご淵駐車場誤駐車防止事業

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 バス駐車・転回場への誤駐車数

令和7年度に掲げた目標値

- 0台 (令和7年度内)

事業の成果/目標の検証結果

- 0台
(令和8年1月27日～2月2日の各日11:00-15:00に目視確認)

成果の詳細

・誤駐車については0台 (1/27-2/2各日11:00-15:00目視確認)
→閑散期である冬季ではあったが、誤駐車が起きやすい、
駐車スペース② (上段) が満車になる状況においても誤駐車は発生せず。



バス転回場の表示



デジタルサイネージによる
一般車両の駐車可能場所案内
(多言語対応)



1月27日の駐車場の様子 (1/27-2/2まで同様に確認)

	00分	10分	20分	30分	40分	50分
11時						
12時						
13時						
14時						

令和7年度事業を踏まえた継続課題

混雑期における誤駐車数の確認

- 閑散期である冬季においては誤駐車0台と目標を達成している
- 一方で、混雑期における目標：バス駐車・転回場への誤駐車数0台の達成状況について引き続き注視する必要がある。

令和8年度以降の方針

追加的な情報提供の検討

- 混雑期等においてバス駐車・転回場所への誤駐車が発生した場合は、サイネージコンテンツ見直しによるさらなる注意喚起や看板等を追加するなどの検討を行う。

5-③. 主な取組（詳細）

地域住民と協働した観光振興

補助事業③	協議会運営とにこ淵活用観光計画の磨き上げ事業		
事業目的	地域の観光計画の磨き上げと参加する観光事業者の増加		
実施主体	高知県の町	実施期間	令和7年11月～令和8年2月

【背景・課題】

- これまで、にこ淵は、「渋滞を起こす一方で、地域への経済波及はほとんどない観光地」という認識であった。そのため、現状の観光政策では、にこ淵のにぎわいの活用は規定されていない。受入環境整備により、地域への経済波及を行うことができる観光地となれていない。

【事業内容】

- 本事業における協議会の運営を実施（各種データ取得・分析、資料作成等）する。
- にこ淵訪問者の人数・属性（性別・年代等）を取得できるAIカメラを設置し、データを取得する。
- 本事業において取得する観光客属性等データと、昨年度の事業により設置した車のナンバー分析データを用いて、オーバーツーリズムを防止しながら、地域住民、事業者とともに、にこ淵や周辺の観光施設等を活用した観光振興についての計画策定を行う。

【推進ポイント】

- 観光計画において、取得したデータと住民の意見に基づいた観光計画の策定（大きなハード事業に頼らないルール地域ならではの観光計画の策定）
- 地域住民や小規模な観光事業者の身の丈に合ったアドバイスを行える専門家の選定をする

属性把握システム



ダッシュボード画面



RVパーク施策検討



5-③. 成果及び今後に向けて

補助事業③

協議会運営とにご淵活用観光計画の磨き上げ事業

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名

地域観光事業者*のご淵の賑わいを活用した観光施策への参加率
 (*地域観光事業者=いの町観光協会会員のうち、にご淵に出店等が可能な飲食店27店舗)

令和7年度に掲げた目標値

30% (令和7年度内)

事業の成果/目標の検証結果

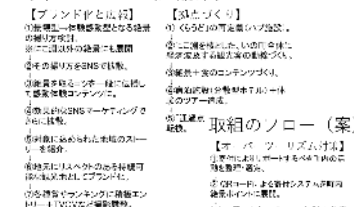
7.4% (観光協会会員飲食店27店舗、にご淵出店者2店舗)
 (令和7年11月～令和8年2月の間の出店者を計測)

成果の詳細

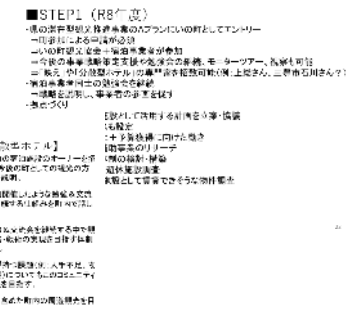
・地域観光事業者のご淵の賑わいを活用への参加率については、7.4%であった。
 →属性の取得等が、変更申請の承認遅れや中国の輸出規制等の影響で遅延し、データの提供が冬季（閑散期）での提供となった。
 そのため、地域の観光事業者等の出店が進まなかった。

・観光振興施策の検討について実施し、令和8年度以降のアクションプランの検討を行うことができた。

取組のフロー (大筋案)



次年度以降の動き (案)



令和7年度事業を踏まえた継続課題

データ分析ノウハウの不足

- ・ 訪問車の車のナンバーや観光客の属性データ等の各種データ分析のノウハウの蓄積が不足している。
- ・ 冬季の閑散期のみでのデータ取得・分析となっているため、混雑期におけるデータ取得・を行い、アクションプランへ反映する必要がある。

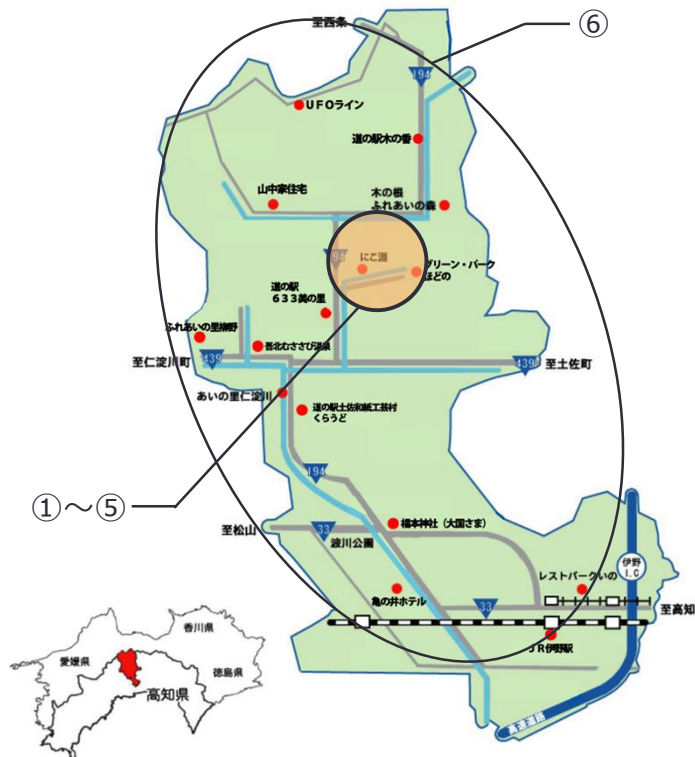
令和8年度以降の方針

アクションプランの磨き上げ、賑わい活用の検討

- ・ 地域の事業者とともに、アクションプランの磨き上げと実行を行うとともに、勉強会等を通じて、データを元にしたにご淵の賑わいの活用の検討と、データの分析ノウハウの蓄積を行っていく。

4. 対策の概要

- 山岳地形であることから人・車が集中しやすく、急増する観光客を受け入れるインフラ整備が課題。
観光客へのアンケートの実施や地域住民交えた協議会の議論踏まえ、右記①～⑤のハード整備の実施を決定
※観光客からは、遊歩道・トイレなどについて不満の声
- 観光客急増の一方、観光地が限られるため周遊性がなく、地域への宿泊も少ないため、地域へお金が落ちない状況。
局所集中からの分散、地域への経済波及効果を目的に、新たなコンテンツ開発事業の実施を決定（右記⑥）



受入環境の整備・増強

取組み 背景 内容

①なだらかな遊歩道・ビューポイント新設

- 現状の急で狭い階段では高齢者などがにこ淵まで下ることができない
- なだらかな遊歩道とビューポイントを新設し、観光客の分散や行列が車道まで伸びることを防ぐとともに、高齢者等も楽しむことができる環境を整備

取組み 背景

②駐車場拡幅く大型バス転回スペース

- 大型バスが展開場所を求めて狭く危険な山道を余計に運転をする必要が出ており、混雑の原因となったり観光客の安全に懸念が生じている
- にこ淵駐車場に大型バス転回スペースを設け、観光客・地域住民の安全を確保

内容 取組み 背景

③トイレ新設

- 現状の仮設トイレは容量が小さく、繁忙期に利用できない事態が発生するほか、異臭の原因ともなる。また、周辺から見やすい場所に設置しているため、女性観光客を中心に安心・安全な利用ができない
- 安心安全に利用できるユニバーサル対応トイレを新設、満足度向上をはかる

内容

取組み 内容

④情報掲示板(サイネージ等)新設

- アクセス道沿いにLEDビジョンを設置、駐車場場所や満空情報を提供
- 併せてサイネージを設置。マナー、歴史、協力金のお願い、近隣観光コンテンツに関する情報を提供する

取組み 背景

⑤案内看板設置くにこ淵への進入口および駐車スペースを案内

- アクセス道路情報提供不足により、狭い道路や私有地でUターンをすることで、渋滞の原因や、住民への迷惑となっている
- 案内看板を設置し、スムーズな誘導、誤侵入時転回等による渋滞軽減を図る

内容

地域住民と協業した観光振興

取組み 背景

⑥あらたな観光コンテンツ造成

- 現状の観光客は、にこ淵等観光地に直線的に向かい、周遊しない日帰り観光が多いため、地域にお金が落ちない状況

内容

- 観光客増加を経済波及につなげるため、地域住民が運営する屋台型カフェを周辺に複数設置し、周遊観光の案内も行う
- 他事業で実施する渋滞予報も活用し、観光客を時間分散を分散させ、新たに造成した観光コンテンツへ分散することで、地域への経済波及の実現を目指す

5-①. 主な取組み（詳細）

課題

にご淵の滝つぼまで至る現行の階段が狭く急なため、
安全な使用に懸念がある
(高齢者等身体が不自由な方が利用できない)

取組み

なだらかな遊歩道・ビューポイント新設
 ・ 実施期間：令和7年2月～
 ・ 実施主体：高知県の町

事業内容

■ なだらかな遊歩道・ビューポイント新設

- にご淵の滝つぼまで行くことができる「なだらかな遊歩道」と、遊歩道の途中にご淵を見ることができる「ビューポイント」を新設する

【背景】

- 現行の階段は急峻な山道に設置しており、体力のない観光客は、にご淵に下り仁淀ブルーを楽しむことができない状況
- 階段が狭くすれ違いが難しいため、階段待ちの行列が車道にまで伸び、交通の妨げや観光客の安全に懸念が生じている

【目的】

- 現行の階段ではにご淵の景色を楽しむことができない人も、にご淵を見たり、滝つぼまで下りたりできるような環境を整える
- 既存の階段に加え新たに遊歩道が作ることで、滝つぼまでの経路が2つとなり、階段や遊歩道待ちの列が車道に伸びる状況を解消する

既存の階段（傾斜が急で幅が狭い）



車道に伸びる階段待ちの行列



5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 遊歩道の傾斜をなだらかにし、遊歩道の途中ににご淵を視認できるビューポイントを設置することで、体力のない方でも、仁淀ブルーを楽しむことができる環境を提供する

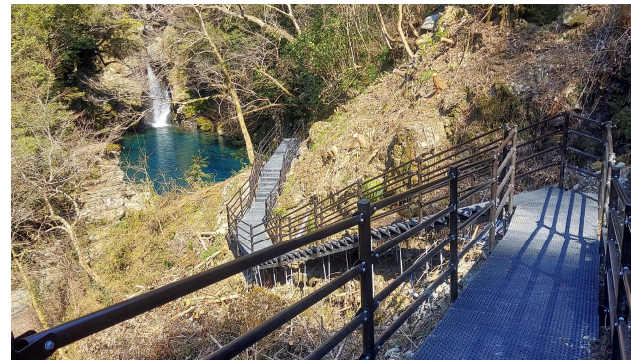
事業の成果／目標の検証結果

- 目標であるユニバーサルな環境を整備することができた
 - ▶ 不満点として遊歩道を挙げる率：
36.4% (n=192) から 0% (n=28) に減少

成果詳細



遊歩道・ビューポイントの俯瞰図



遊歩道（既存の階段に比べ道幅が広くなだらか）



遊歩道途中のビューポイント（車いすでの来訪も可）

令和6年度取り組みから見てきた課題

■ 持続可能な観光管理に向けた収益基盤の強化

- 利便性向上によりさらなる来訪者増加が見込まれるが、現状の収益源は協力金のみ
- 増大する観光管理費用をカバーするため、にご淵における新たなマネタイズポイントの創出が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

■ 拡張スペースの有効活用による収益化

- ビューポイントなど拡張スペースを活用し、屋台型ポップアップカフェを設置
- 観光体験の向上とともに、収益化できる場を創出
- （本事業「新たなコンテンツ造成」の実証で、省スペースでの実施が可能であることを確認済み）

5-②. 主な課題（詳細）

課題

にこ淵のみに観光客が集中
日帰り客が多く、地域への経済波及効果が限定的

取組み

新たな観光コンテンツの造成

- ・ 実施期間：令和6年9月～令和7年1月
- ・ 実施主体：高知県いの町

事業内容

■ 地域資源を活用した新たな観光コンテンツの造成

- ・ にこ淵などの観光地周辺や、景観等がよい場所において、地域住民が運営する屋台型ポップアップカフェを複数設置する
- ・ 「地域コンテンツを楽しむ新たな観光地」と「観光案内所」としての2つの機能を持たせ、屋台型カフェ自体を新たな観光目的地にするとともに、地域住民だからこそ知る観光地情報を提供し、観光客の他の観光コンテンツへの送客を図る

【背景・目的】

- ・ にこ淵を含む仁淀川上流域には、近隣に観光スポットがなく周遊につながない。そのため、地元への観光による経済波及効果も少なく、持続的な観光振興につながない状況。
- ・ 地方部では、巨大な投資を伴う、大規模施設のような観光コンテンツの開発が難しい。そのため、既存の景観や文化遺産等を利用した小規模な観光コンテンツを分散して造成することで、大きな投資を行わず、観光コンテンツを造成し、周遊促進と観光振興を実施する。

屋台型ポップアップカフェ（スペシャルプレイスキット）



5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 地域住民が運営する屋台型カフェを周辺に複数設置し、観光客の周遊を促すことで、観光客増加を地域全体の経済波及につなげるための運用体制の基礎を確立する

事業の成果／目標の検証結果

- にこ淵以外の地元スポットへの誘客を複数回実施
- にこ淵を訪れる観光客が求めるものなど、地域内他エリアへの展開に向けた基礎的な方向性や運用体制について確立することができた
 - ▶ 計6回の実施で、にこ淵以外のスポットへ計31組送客

成果詳細

■ イベント結果の概要

- 実施した下記イベントのうち、①・⑤については、10%程度の送客を行うことができた。一方、コーヒーフェスタや音楽イベントイノベーションレなどのイベントへの誘因率は低い
- このことから、にこ淵からの誘客においては、「美しい景色や、地元の食事・産品が楽しめるもの」を訴求することが有効であることを把握
- あわせて、②についても、9%の誘引率を示しており、「グリーンパークほどの」など近隣地域への誘客も期待できる

結果詳細

	日付	にこ淵に流入した車の台数	送客先への訪問数	送客先訪問率	周遊促進（送客先）
①	10/5	114組	10/104組	9.6%	神楽と鮎と酒に酔う @仁淀川河川敷の波川公園
②	11/3	112組	9/100組	9%	簡易カフェ・うどん店舗はちのじ @にこ淵からさらに山奥に位置するグリーン・パークほどの
③	11/4	191組	4/120組	3%	地域住民向けの音楽イベントイノベーションレ @商店街
④	12/7	88組	2/77組	2.6%	簡易カフェ @道の駅土佐和紙工芸村クラウド
⑤	1/13	52組	4/43組	9.3%	簡易カフェ・焚火イベント @道の駅土佐和紙工芸村クラウド
⑥	1/19	46組	2/48組	4.3%	コーヒーフェスタ @商店街内の古民家カフェ店舗ukikiコーヒー

成果詳細

スペシャルプレイスキット設置による
にこ淵からの分散化 全体像



②簡易カフェ・うどん店舗はちのじ



①イベント「神楽と鮎と酒に酔う」



⑥コーヒーフェスタ



③地域住民向けの音楽イベントイビエンナーレ



④簡易カフェ



⑤簡易カフェ・焚火イベント

5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 令和6年度はコンテンツの中身を創り上げることに焦点を当てたが、そのコンテンツを活かすための誘客や支える人材の確保が課題となった

1 マーケティング戦略の練り上げ

- コンテンツは作り上げたが、コンテンツへの来訪を促すための仕掛けが不足

2 旅行前の周知の強化

- 旅程を組んで訪れる観光客が多く、旅行中段階での新規コンテンツ発信では来訪・周遊につながりにくい
- 来訪前の段階で適切な情報を届ける施策が必要

3 担い手人材の確保

- 現在は地域おこし協力隊（県外からの流入人材）に依存しており、さらなる人材確保が課題。
- 県内人材の活用など、新たな人材確保の仕組みが必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 観光客ニーズを精査し、媒体や大学などの関係機関と連携しながら、観光客の地域内分散に寄与するほど強力な集客力を持つコンテンツへアップデートしていく

1 ターゲット別の訴求ポイント整理

- にこ淵来訪者は「通過型」と「滞在型」に大別され、それぞれ異なるニーズを持つと仮説設定
- 各ターゲットに適した訴求ポイントを整理し、効果的なマーケティングを展開

2 適切な媒体と連携した事前周知

- いの町旅行に関心のある層にアプローチできる媒体を選定し、連携して情報発信を強化
- 事業者ごとに発信しているイベント情報を集約し、効果的に媒体と連携する仕組みを構築

3 高知大学との連携

- 県内の若手起業家支援や定着推進の文脈で高知大学と連携し、大学卒業後にいの町で活躍する人材を確保する

現状について

- 令和7年度は、地域一体型として事業を実施。

5-②. 新たな観光コンテンツ造成の今後について

観光コンテンツの新たな造成の今後の方針について

- 観光コンテンツの造成を通じて、地元の人が副業で観光収入があげられるよう、観光事業を行う人材を育成する取り組みを実施する。
- 本取り組みを通じて、地域おこし協力隊などの移住者に職を提供し、定住につなげていく。

いの町の目指す姿

対策（案）

①分散型観光スポットの創出

- メインスポットの周辺に「行く場所」を作る

②小規模店舗（カフェなど）による案内拠点づくり

- 人を通じて観光情報を案内
- 小さなマネタイズモデルを作る

③空き家を活用した宿泊施設でマネタイズ

- 少額投資での宿泊施設モデルを構築
- 宿泊＋カフェ＋観光スポットのセットを構築

仁淀川流域独自の
分散型観光モデルを構築



モデル例



実際に1軒目をやってみて、そこを研修場所として地域内への開業（起業）を支援



あまり知られていない
地元の観光スポット

案内



太鼓など
伝統芸能

地域おこし協力隊など
若者を受け入れ、経営ノウハウや物件選定
を支援して地域内で開業してもらう。



【事例】

- いの町大国町でコーヒーショップ「Ukikiコーヒー」を経営する浮木さん。※令和6年11月までの町の地域おこし協力隊
- 現在、本取り組みを行っており、にこ淵においてスペシャルプレイスキットを用いたポップアップカフェを今後実施
- いの町での定住を目指し、空き家を活用した少額投資ホステルについても、今後、取り組む予定

